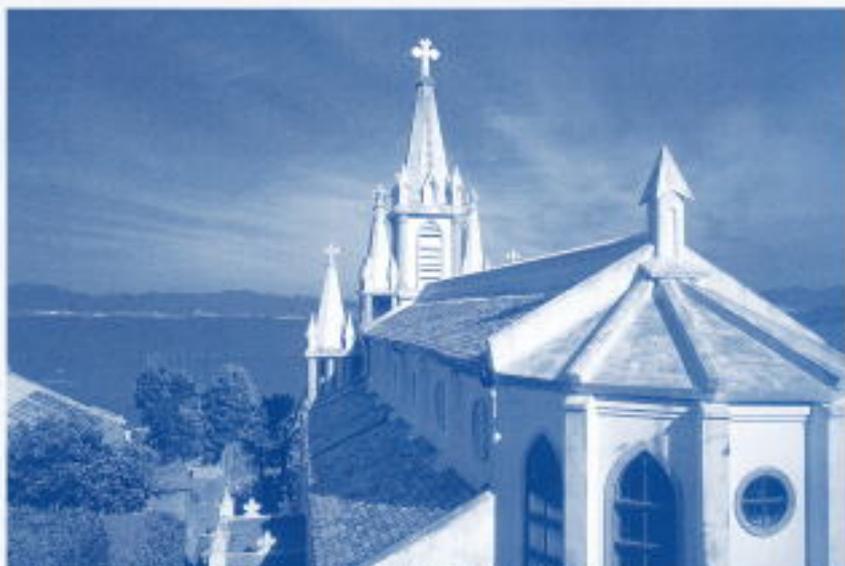


平成28年度長崎市芸術文化活動助成事業

新しき歌の世界を目指して、アカ団45年目のチャレンジ!

# 長崎アカデミー男声合唱団 創立45周年記念演奏会

～男声合唱団「風」を迎えて～



長崎 真光教会(伊王島町) 写真撮影・掲載にあたっては大岡教区の許可をいただいております。

とき

2016年11月20日(日) 開演:午後2時

ところ

長崎ブリックホール 大ホール

主催 / 長崎アカデミー男声合唱団

助成 / 親和銀行ふるさと振興基金

後援 / 長崎県・長崎県教育委員会・長崎市教育委員会・長崎県合唱連盟・長崎県音楽連盟・長崎新聞社  
朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社西部本社・西日本新聞社長崎総局・NHK長崎放送局・NBC長崎放送  
KTNテレビ長崎・NCC長崎文化放送・NIB長崎国際テレビ・長崎ケーブルメディア・エフエム長崎

## ご挨拶

本日はご多忙の中、私どもの「創立45周年記念演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。当団は昭和46年9月に結成され、現在団員66名、昨年2月には長年の文化活動を評価され、長崎県より「地域文化章」を受章いたしました。

団員の職歴も様々で、元造船マン、銀行員、教師、医師、呉服屋など、40代から80代までの3世代同居の合唱団です。演奏活動は、「合唱祭」、「市民音楽祭」のほか地域の様々なイベントをはじめ、平成15年には横浜グリークラブとのジョイントコンサート、平成20年にはドイツ演奏旅行、平成24年にはイタリア演奏旅行を経験し、昨年は京都での「全日本男声合唱フェスティバル」に出演、「特別賞」も頂きました。

今回は、“新しき歌の世界を目指して、アカ団45年目のチャレンジ!”として長崎をテーマにした委嘱作品、男声合唱曲「海の記憶」の初演や、団員の寸劇を織り込んだ楽しいステージ「アカ団チャンバラ劇場」、古代から現代に至る日本の詩情豊かな男声合唱組曲「沙羅」の演奏を堪能頂ければ幸いです。

また、兵庫県加古川市からは関西合唱界の雄、男声合唱団「風」の皆さんがはるばる駆け付け、長崎にちなんだ「おらしょ」や、さだまさしの「案山子」などの曲を歌われますのでご期待下さい。

長崎アカデミー男声合唱団

団長 益田 清

## 祝辞



長崎市長  
田上 富久

本日、長崎アカデミー男声合唱団創立45周年記念演奏会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

長崎アカデミー男声合唱団におかれましては、合唱による音楽の普及、後進の指導育成にご尽力されるとともに、長きにわたり合唱を通じて、本市芸術文化の振興に多大なご貢献をいただいておりますことに対し、感謝申し上げます。

また、益田清団長をはじめ長崎アカデミー男声合唱団の団員の皆様のたゆまぬご努力により、団の創立45周年という節目の年を迎えられたことに対しまして深く敬意を表します。

本演奏会は、合唱団初の委嘱作品「海の記憶」の初披露や兵庫県加古川市で活躍されている男声合唱団「風」の賛助出演など、充実したプログラムで公演されると聞き及んでおります。

ご出演の皆様方におかれましては、日頃のご研鑽の成果を十分に発揮され、実りある演奏会となりますことをご期待申し上げます。

本日お越しの皆様方におかれましても、重厚な響きで聴衆を魅了する男声合唱の魅力をご存分に楽しんでいただけるものと存じております。

終わりに、本日の演奏会のご盛会と長崎アカデミー男声合唱団の益々のご発展並びに益田団長をはじめ、団員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 曲目解説

### I. 男声合唱組曲「沙羅」

この曲集は、信時 潔の名歌曲集「沙羅」を男声合唱に編曲したものです。組曲となっていますが、全曲でひとつの物語になるのではなく、一曲一曲が独立した歌曲なので、それぞれの曲にあった人間にならねばなりません。まず、1曲目の「丹澤」は、山頂から遙か伊豆半島にある天城<sup>あまぎ</sup>を見やったあと、“雪の来ぬ窪に座り、ひとり煙草の煙を見上げる”山男になります。と思えば、次の曲「あづまやの」は歌舞伎調で、ある大旦那の強がりの歌です。ピアノが後奏で“おばかさん”と笑って終わります。そして、3曲目「北秋の」では、今は亡き愛妻“あき”に捧げる“蜜蜜しく、小さい花、北秋の花”です。

このように曲ごとに歌い手が変わる男声合唱組曲「沙羅」を、8曲目の「ゆめ」で、“夢ごころ うつつ心 たゞひろき 池ばかりなる”と歌い納めます。(高林 弘 記)

### II. 男声合唱団「風」(賛助出演)

「どちりなきりしたん」はキリスト教伝来の様子が語られている。天地創造や宇宙の秩序など、当時の人々はこの目新しい考え方に希望の光を見つけたに違いない。

「おらしょ」訪ね、平戸生月島の「カクレ資料室」に。入口には幕府のキリシタン禁止の立て札と厳しい弾圧に崖から飛び降りる大勢のカクレの絵。神棚の奥から念仏が聞こえてくるが、ラテン語らしき言葉も混じっている妙な音楽(?)が。さらに奥に進むと、暗闇にあやしい掛け軸が見え、着物の女性が描かれていた。実は“マリア様”であった。外からは日本の神棚しか見えないカクレ神とそこで歌われる「おらしょ」を再現していた。

さだまさしは東京でバイオリンを修業中に資金不足になると実家に「お金送れ！」と電話。たまたま受話器をとった弟はそれを聞き、苦学している兄に小遣いから精一杯の500円を送る。受け取った兄は弟の気持ちに涙。後に弟が留学した時「元気でいるか、お金はあるか」と支援する。これが「案山子」の構想に繋がる。切なく、いとおいしい。

「関白宣言」、「関白失脚」では夫婦愛や男の生きざまに軽妙で笑いがこみ上げるが、心の奥底までぐるぐる気持ちを歌い上げる。“がんばれー！”(古坂 安志 記)

### III. アカ団チャンバラ劇場「合唱で時代劇」

アカ団の個性の一つである「エンターテイナー力」を存分に発揮するステージとなっている。団員の横田建次脚本・演出(兼小道具衣装係)によって生み出されるチャンバラ劇場は、完全なフィクションでありながらも、曲ごとに役者の寸劇が入り、一人の幼子(大五郎)と親(拝一刀)の歩みを中心とする家族愛に寄り添いながら展開していく。

「子連れ狼」(1970年9月-1976年4月『漫画アクション』(双葉社)連載)は親子の愛を甘く切なく演奏し、



# つねだ形成外科

院長 / 常多勝己

■長崎市古川町 6-34 ☎826-6565

「赤胴鈴之助」(1954年、『少年画報』第1回掲載、1957年ラジオ東京(現TBSラジオ)ドラマ化)は元気いっぱいアカ団の若々しさを表現し、「だれかが風の中で」(1972年リリースされた上條恒彦のシングル。同年フジテレビ放送『木枯し紋次郎』主題歌)は、団員一人一人が歩んできた青春を歌い上げる。「銭形平次」(1931年連載開始、1958年テレビドラマ化)では、男の哀愁を奏でつつ、ラストの「あゝ人生に涙あり」(1969年テレビ時代劇『水戸黄門』主題歌)は、ご来場の皆さんと一緒に合唱して、アカ団チャンバラ劇場の大団円を迎えたい。(岩永 崇史 記)

#### IV. 男声合唱曲「海の記憶」(長崎アカデミー男声合唱団創立45周年記念委嘱作品)

いのちの根源から－「海の記憶」について

「1 母は海」＝生命への讃歌

「2 鯨神」＝食物連鎖とレクイエム

「3 ことばの光」＝祈りの起源

ひとまず、この組曲の詩のモチーフは、以上のようになるだろうか。というのは、明確に主題を決めてから書き始めるわけではないから。ただ念頭にあったのは、長崎は全国一の海洋県であり、生や死、悲喜こもごも、海の存在の影響が大きいということだった。

また、個人的なことだが、五島で生まれ育ったので、海は最も身近にあった。小学二年時、五島の富江で鯨の解体作業を見学した。宇能鴻一郎の「鯨神」(芥川賞)は秀作。そして、遠藤周作の「沈黙」のように、弾圧と殉教と信仰の問題は長崎県に凝縮されている。

このようなことを、歌手、聴き手とともに考え、イメージを創造してみたかった。

(作詩者：田中 俊廣 記／活水女子大学文学部教授。詩人、詩と批評「あるるかん」代表)

「母は海」 男たちの勇壮な叫びによって曲は始まる。この開始部のメロディーは全3曲を通して聞かれ、海(自然)のテーマとして現れる。銀河宇宙に地球が生まれた壮大なドラマ、そして、その地球の大地に命を授けてくれた“母なる海”への感謝が謳われる。

「鯨神」 古(いにしえ)の時代にあった伝説の大鯨と海の男たちとの闘い。海は荒れ狂い、勇敢に獲物に立ち向かう漁師たちの姿。死闘の末、ついに鯨に打ち勝つ漁師たち。しかしその時、鯨の姿は神となって男たちの前に現れる。夕日の輝きの中に“鯨神”の雄大な姿が浮ぶ。

「ことばの光」 荒地を歩む男たちの姿が描かれる。信仰を伝えるため、それを待つ人々のため男たちは歩み続ける。しかしその仲間の多くは捕えられ、死の恐怖に直面する。絶望の中、教会から聞こえる聖歌の響き。スタンドグラスから差し込む柔らかい陽の光に包まれ、“祈りの歌”が始まる。神のことばは光となり、暗闇の中でやさしく輝きはじめる。(作曲者：加藤 豊 記)



## 東和開発株式会社 喜々津カントリー倶楽部

〒859-0403 長崎県諫早市多良見町市布1656-1

電話 0957-43-0223(代)

F A X 0957-43-0226

練習場 0957-43-1000

## プロフィール



指揮  
高林 弘

横浜の普通高校で、音楽の先生から佐々木基之（当時は佐々木幸徳）が提唱する音感訓練をみっちり鍛えられたのが、今も合唱の基本になっており、大学のグリークラブでは学生指揮者として、指揮法の研修を受ける。長崎に就職してからは、職場の合唱団の他、長崎混声合唱団に入り、街のアマチュア合唱指揮者として「平和音楽祭」、「第九を歌う会」などの指導を行い、長崎合唱連盟の理事になる。現在は長崎アカデミー男声合唱団他、数団体に所属し、団員として歌ったり指揮をしながら毎年2回、武蔵野大学で開催される教育音楽学会のワークショップに参加して、研修を続けている。



指揮  
岩永 崇史

長崎北高31回生、九州大学文学部史学科考古学専攻卒。九州大学男声合唱団コールアカデミー所属、学生指揮者。2003年より活水学院活水高等学校活水中学校社会科教諭。同校にてコーラス部樟 TwinkleStars を立ち上げ、施設訪問や他校との交流演奏、平和コンサートなどを実施。第26回長崎平和音楽祭実行委員長。レクイエム・プロジェクト沖縄・長崎2015参加。混声合唱組曲「悪魔の飽食」第24回全国縦断コンサート長崎公演実行委員会事務局長。2012年4月より長崎県合唱連盟事務局長。長崎室内合唱団メンバー、県民第九合唱指導。長崎アカデミー男声合唱団指揮者。



客演指揮/委嘱作品作曲  
加藤 豊

愛知県出身。愛知県立芸術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了後、ドイツ国立ミュンヘン音楽大学作曲科に入学。1980年ミュンヘン市主催「若い作曲家のためのコンクール」で自作曲が入選。帰国後、1995年長崎市「復活コンサート（小沢征爾指揮）」の合唱指揮を担当。2003年、活水女子大学音楽学部定期演奏会のために女声合唱曲『海坂』を作曲。2008年諫早市民のための委嘱作品 混声合唱曲『水の約束』を作曲。2014年、長崎被爆70周年のための委嘱作品 混声合唱曲『翼の伝承』を作曲。現在、活水女子大学音楽学部教授。女声合唱団『Fortuna』指揮者。作曲家グループ『美音彩歌』会員。



ヴォイストレーナー/MC  
尼崎 裕子

2007年、2009年渡伊しオペラマスタークラスを受講。オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「蝶々夫人」他、プリマや主要な役で出演。「レクイエム」「戴冠ミサ」「第九」他ソリストをつとめる。2009年、2012年ローマ・長崎にてソロリサイタル、交流コンサートに出演。他、声楽を田川和子、Sローチ、小谷彩子氏に師事。活水高校非常勤講師。ハウステンボス歌劇団学院講師、合唱団「翔」、ムジカチェレステ、ステッラ、指揮者。ふたば女声合唱団、長崎アカデミー男声合唱団他、市民ミュージカルにて、ヴォイストレーナー。編曲者として「ふるさは今も変わらず」にて日本レコード大賞企画賞を受賞。今年2月には自作の「ありがとう、友よ」は新沼謙治氏によって日本コロムビアよりリリースされている。



ピアノ  
森 愛子

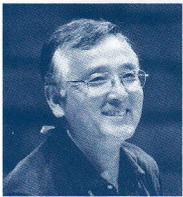
活水高等学校普通科音楽コース、活水女子大学音楽学部ピアノ・オルガン学科卒業。第33回長崎県高等学校音楽コンクールにおいて金賞受賞。活水女子大学卒業演奏会出演。現在、長崎県音楽連盟、長崎音楽ボランティア協会、 minstrel コンサート ソサエティ各会員。長崎アカデミー男声合唱団、長与プラム混声合唱団、リリック・アンサンブル各伴奏ピアニスト。他、専属合唱団以外のピアニスト等も務めている。



ピアノ  
寺谷 陽子

活水女子大学音楽学部演奏学科ピアノコース卒業。九州調律師協会主催第1回新人演奏会出演。ピアノを草野幸子、太田昭子の各氏に師事。合唱団、声楽、管弦楽器の伴奏やアンサンブルでの演奏活動も行っている。活水高等学校音楽コース、鶴鳴学園長崎女子短期大学、同高等学校非常勤講師。アンサンブル・ユニット quatre(キャトル)、長崎の作曲家グループ「美音彩歌」メンバー。

## 《 男声合唱団「風」 》



常任指揮  
畑 博道

加古川中学合唱部で合唱を始め、加古川東高合唱部、関西学院グリークラブに所属。関学グリーでは、故・林雄一郎氏、故・畑中良輔氏をはじめ多くの指揮者の指導を受け、特に故・北村協一氏には多大なる影響を受ける。卒業後、家業を継ぐ傍ら加古川男声合唱団(KMC)、コール'80(混声)を立ち上げ、指揮者として活躍。また混声合唱団「コーロノーボ」の一員として、ラトヴィア共和国の「リガ合唱祭」に参加。

現在、男声合唱団「風」の常任指揮者として50余名を率い、2000年以降毎年演奏会を開催。また近隣の中高生の合唱部とクリスマスコンサートを開き地元のコーラスの活性に力を注ぐ。作曲家・多田武彦氏の委嘱作品を第11回演奏会では「中也の四季」第15回演奏会では「秋の歌」を初演。また各地からの招待演奏に応え小樽、筑波、防府での演奏会で合同演奏を指揮し絶賛を博した。



指揮  
下 蘭 大樹

神戸市に生まれる。関西学院中学部、関西学院高等部、関西学院大学理工学部を経て、同大学院理工学研究科博士課程前期課程にて和音の印象の数値化について研究。在学中は関西学院高等部グリークラブ、関西学院グリークラブに所属。関西学院グリークラブでは学生指揮者を務める。現在、カンサオン・ノーヴァ指揮者、男声合唱団「風」副指揮者、関西学院高等部グリークラブコーチ。

高校時代よりカルテットグループ『カルテット男子』のメンバーとして活動する傍ら、同グループの編曲を行ったことをきっかけに独学で編曲を始める。ミュージカルやPopsの曲目を中心に編曲活動を行っている。



ピアノ  
横山 周作

高知市に生まれる。土佐中学校、土佐高等学校を経て、関西学院大学法学部卒業。大学在学中、関西学院グリークラブでの活動を通して男声合唱に深く魅了される。

卒業後は男声合唱団「風」、紡(男声合唱団)、新月会会員として合唱活動を継続。これまでにピアノを三谷和歌子、笹川美穂の各氏に師事。

# 城山交通株式会社グループ



地域社会に貢献し、地域に無くてはならない会社づくりを目指して、社員一同頑張っています！  
代表取締役 中村 弘幸

- 一般旅客自動車運送事業 (タクシー事業)  
長崎市花園町 TEL.095 (861) 4060
- 短期入所施設マリンガーデン  
長崎市小ヶ倉町 TEL.095 (832) 5222
- 指定訪問介護事業  
長崎市花園町 TEL.095 (861) 0115
- 通所介護施設ドルフィン  
長崎市小ヶ倉町 TEL.095 (832) 5225